

信仰と仕事 Faith & Work ④

イントロダクション | 「愛と仕事の両立：愛をもって仕事ができるか？」

しばしば、仕事と愛とは相いれないことだと言われます。「仕事に愛は必要ない！」と。本当にそうでしょうか？聖書は、仕事における愛や信仰の重要性についてどのように言っているのか見ていきましょう。第1に、仕えることとしての仕事という面を見ていきます。第2に、仕事が神からの召しであるという聖書的な職業観を明確にしましょう。そして3番目に、愛と仕事の関係、仕事には愛が重要で不可欠であるという点を考えたいと思います。キーワードは、仕えること、召し、愛の3つです。

聖書 | エペソ書 6章 5-9節

6:5 奴隷たちよ。あなたがたは、キリストに従うように、恐れおののいて真心から地上の主人に従いなさい。6 人のごきげんとりのような、うわべだけの仕え方でなく、キリストのしもべとして、心から神のみこころを行い、7 人ではなく、主に仕えるように、善意をもって仕えなさい。8 良いことを行えば、奴隷であっても自由人であっても、それぞれその報いを主から受けることをあなたがたは知っています。9 主人たちよ。あなたがたも、奴隷に対して同じようにふるまいなさい。おどすことはやめなさい。あなたがたは、彼らとあなたがたの主が天におられ、主は人を差別されることがないことを知っているのですから。

考えましょう |

- 1: 奴隷と主人に対してそれぞれどのようにふるまう（仕事をする）ように教えていますか？共通点と相違点があればそれらを明らかにしましょう。
- 2: 9節では主人に対して「同じようにふるまいなさい」と教えています。どういう意味でしょうか？奴隷と主人を部下と上司の関係に当てはめるとできると思います。互いにどのようにふるまったり、仕事をしたらよいのでしょうか？
- 3: 1コリント書7章によれば、それぞれの仕事は神の召しと言われています。神がそれぞれの仕事を召しとして与えてくれたのであれば、どのような励ましを得ることができますか？特に、仕事が行かないような時に神の召しはどんな助けがありますか？（参考 1コリント7:17, 20-21）
- 4: 仕事を神の召しとして受け入れ、神の栄光のために仕え、人々や世界のために働くことであると考えたら、どのように仕事を選んだらよいのでしょうか？
- 5: 奴隷が主人に仕えるため、主人も奴隷に対して同じようにふるまうための理由は何でしょうか？それはあなたの仕事のやり方にどのような影響をおよぼしますか？
- 6: 奴隷が主人に、主人が奴隷に仕えることは、愛なしには実践することはできません。あなたはどのように愛をもって仕事をするのでしょうか？

読みましょう |

1 コリント書 7章 17, 20-21 節

7:17 ただ、おのおのが、主からいただいた分に応じ、また神がおのおのをお召しになったときのままの状態です。私は、すべての教会で、このように指導しています。… 20 おのおの自分が召されたときの状態にとどまっていなさい。 21 奴隷の状態で召されたのなら、それを気にしてはいけません。しかし、もし自由の身になれるなら、むしろ自由になりなさい。

祈りましょう |

- ・ 神の召しとして仕事を与えられ、神の栄光、隣人と世界の必要のために仕えられることを感謝しましょう。主イエス・キリストの愛のゆえに、仕事さえもその意味が変えられ、新しい態度で働けることを喜びましょう。
- ・ 愛を失って自分のためだけに仕事をするなら、必要以上のプライドや優越感を持ったり、逆に自己嫌悪や劣等感に苛まれることがあります。仕事における自分の態度や感情をチェックして悔い改めましょう。

今週～来週のイベント

ランチタイムミーティング (6/2 大手町)

お弁当プロジェクト (4)

礼拝 Worship & Fellowship (5、信仰と仕事 5「仕事の労苦」)

グレースシティゴスペル (6)

ランチタイムミーティング (7 赤坂、8 霞が関、9 大手町)

礼拝 Worship & Fellowship (12「十字架につけられて」)